



くすり箱

第16回目のテーマは、“経口糖尿病治療薬”についての紹介です。



まずは、糖尿病とは？

血液中の糖分をコントロールするホルモン(インスリン)の作用不足による慢性高血糖を主とし、さまざまな代謝異常を伴う疾患です。

治療目標には、慢性的な血糖コントロール不良からくる3大合併症(神経障害、網膜障害、腎障害)の発症・進展の阻止があります。


治療の基本は食事療法・運動療法にありますが、一定期間行っても血糖コントロールが不十分な場合に、お薬は使用されます。ただし、お薬だけで治療を済ませることはできません。食事・運動療法は常に共にあるものです。




つづいて、経口糖尿病治療薬には、どんな種類があるのか？

ここでは、経口糖尿病治療薬を血糖値を下げる薬もしくは血糖上昇を緩やかにする薬と考えて、その医薬品のはたらきと副作用を簡単にまとめました。

分類 当院採用薬	はたらき	主な飲み方	起こりやすい症状
スルホニルウレア (SU)剤 アマリール、 オイグルコン他	インスリン分泌を持続的に促進し、血糖値を下げるお薬です。	1日1~2回、 食前 または 食後服用	おなかが張る、便秘、 むくみ、体重増加など
速効型インスリン 分泌促進剤 ファスティック他	速やかに短時間、インスリン分泌を促進し、食後高血糖を改善するお薬です。	1日3回、食直 前服用	おなかが張る、便秘、 体重増加、むくみなど
-グルコシダーゼ 阻害剤(-GI) グルコバイ、 セイブル、ベイスン 他	小腸での糖質の消化・吸収を遅らせ、食後高血糖を改善するお薬です。	1日3回、食直 前服用	おなかが張る、おならの 回数が増える、下痢、便秘など(特に飲み始めや飲む量を増やしたときに起こることが多い)
チアゾリジン系 薬剤 アクトス	肝臓において糖を作り出す作用を抑制し、筋肉や脂肪組織など末梢組織における糖の利用を高め、血糖値を下げるお薬です。	1日1回、朝食 前又は朝食後 服用	吐き気、おなかが張る、動悸、めまい、むくみ(女性に多い)、体重増加など

ピグアナイド (BG)系薬剤 メデット他	主に、肝臓において糖を作り出す作用を抑制します。また、筋肉における糖の利用を高め、血糖値を下げるお薬です。腸管からの糖吸収を抑えるとの報告もあります。	1日2～3回、 食後服用	下痢、吐き気、腹痛など
DPP-4阻害剤 グラクティブ	インクレチン(食事をとることによって小腸から血液中に分泌され、インスリン分泌を促進する作用をもつホルモン)を分解する酵素DPP-4のはたらきを抑え、インクレチン濃度を上昇させてインスリン分泌を促進し、血糖値を下げるお薬です。	1日1回服用	便秘、おなかが張る、腹痛など 

これらの薬剤は低血糖を起こすことがありますので十分注意しましょう。


 治療上知っておきたい、**低血糖とは？**


低血糖とは血糖値が70 mg/dl 以下になる状態をいいます。ふだんの血糖が高い場合は、もう少し高い血糖値でも症状が出る場合があります。

低血糖の症状は、冷や汗・動悸、手指のふるえなどが典型的なものです。そのような症状が起きる前に、異常な空腹感、生あくび、脱力感などを認める場合があります。放っておくとケイレンを起こしたり意識を失うこともあります。ご注意ください。

低血糖は個人によって症状の出方の違いがあります。立ちくらみでふらふらするのを低血糖とまちがえないようにしましょう。

低血糖が起こったら、すぐに糖質を含む食品を摂ってください。ただし、
-グルコシダーゼ阻害剤(-GI) (当院採用薬・グルコバイ、セイブル、ベイスン他)を飲んでいる場合は、必ずブドウ糖(病院薬局・調剤薬局で提供しています)を摂ってください。

 糖尿病は運動・食事療法・薬物療法を組み合わせうまく付き合っていくことが大切です。

 院内で使用している糖尿病薬専用の薬袋の裏には、糖尿病薬を使用される方への注意書きがあります。ぜひご覧下さい。

次回は、“睡眠を助けるお薬について”のテーマで、2010年9月発行予定です。

